

# 免状

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/9213">http://hdl.handle.net/2297/9213</a>

## 免 状

License

金沢大学医学部第二外科  
宮 崎 逸 夫

昭和24年、第四高等学校を1年で修了させられて、新制金沢大学の第1期生と云うことになった。一般教養部の2年間は随分、時間の余裕があって、この間に友人から囲碁を教わった。それから、途中で20年程のブランクはあるので、通算47年間、正味27年間、囲碁を楽しんだことになる。今も囲碁を教えてくれた友人に感謝し、あの一般教養の期間は私にとって有意義であったと思っている。

現在、日本棋院石川支部連合会会長に祭り上げられている。実力があるからではない。石川県医師会だけでも私より強い人が沢山いるし、石川県全体となると50位内にも入っていないだろう。それなのに、どうして支部長なのか。前支部会長の某ホテル社長に懇願されて断り切れなかったからである。

囲碁のプロは九段までであるが、アマの最高は7段である。最近まで7段をもつ人は日本全体で5～6名だった。ところが、急に日本棋院は7段を安売りし始めた。話によると3000名位い7段の免状を出すと云う。私は7段の免状は断った。せめて、6段をと云う。熱心なすすめに折れて、6段を頂くことにした。

免状に対して、いろいろな考え方があるが、私は力に相応しくない免状は無用と思っている。私の周囲には、そのような人もいるし、矢鱈と免状に執着する人もいる。その中間と云うか、無理もなく、勧められると素直に受ける人もいる。

一般に、日本ほど免状を欲しがると、或いは免状を取られる国はないのであるまいか。茶道、華道、日本舞踊、いずれも多聞に洩れない。しかし、考えようによってはそれによって、流派が保たれ、家元制度が確立しているとも云えよう。ただ、これらの道はいずれも芸事と称される。もし、芸事とすれば、努力もさりながら、才能が必要ではあるまいか。したがって、流派の中心にいる家元が、世襲制であると云うのは、理解できない。囲碁は徳川時代は4つの家元があり、徳川幕府の庇護を受

けていた。その中の1つが、本因坊家である。稀に父から子、或いは弟と云う場合があるが、一門の最強者を跡目相続とするのが原則であった。真の才能が必要とする世界であれば、世襲制は先ず成立しないと云うべきではなかろうか。

西洋と云わず、東洋も含めて、日本人以外は免状を有難く思わないようである。自己の実力に合った段級を知っておれば、それでよいわけで、それに応じて勝負と云うことである。

私の述べたいことは以上で終わったのであるが、紙数の余裕が少しあるので、家元と云う思い出すことをつけ加えたい。

数年前まで、茶道の某流派が、12月14日に茶会を催す記事が新聞に毎年、報じられていた。その流派の家元が、元禄14年12月14日、吉良上野介邸での茶会を終えた帰路、元浅野家の家臣に、吉良が茶会に出ていたと云う示唆を与え、それによって、赤穂義士の快挙を助けたことを徳とし、流派の誇りとしてとのことである。日本人に人気のある所謂忠臣蔵については、私なりの見解があるが、それはさておき、茶道の家元の行為は果して美談と云えようか。

吉良上野介は音に聞こえた文化人であり、茶道の家元のスポンサーであったろうと考えることは、それ程無理ではない。一步譲っても家元と吉良とは長年に亘る、つき合いがあったと思われる。家元と浅野家、或いはその旧家臣と、どの位の関係があったかは知らない。いずれにしても、スポンサー或いは永年の情を裏切ることが美談となるであろうか。その疑問を掲載新聞の記者に話したところ、「そんな考え方もあるのですね」と妙に感心されてしまった。それ以降、その新聞には茶会のことは報じられていない。

なお、誤解のないよう断っておきたい。医学博士の免状は医学を研究し、貢献した大きな価値あるものであって、本稿で云う免状とは全く関係のないところである。